



●Tackle Guide

市販されている全長2.1メートル前後のマゴチ竿は長さ、穂先の硬さがマゴチ専用に調整されているので使いやすい。長くこの釣りをやるのであれば、一本持っていてもいいと思う。マゴチ竿はシロギス釣りでのハモノ用にも使える。ほかにはオモリ負荷15〜40号、7:3調子のゲームロッドもマゴチ釣りに適している。短めだがライトアジ用の竿でも流用できるだろう。

合わせの瞬間、竿にはそれなりの負荷がかかるので、先調子のシロギス竿は避けたほうが無難だ。筆者はかつてキス竿を合わせて折った経験がある。

▶ハゼエサの場合はハリに丸セイゴやイセアマなどを使う



▲すず大物か!?と思われる引きもサメやエソのことがあった

酸欠で食いが悪い?

再び船長は大移動を決める。次のポイントは羽田沖だ。照りゴチのポイントで、大型の実績が高い。離着陸する飛行機を眺めながらアタリを待つ。新しいポイントに入れば一度や二度のアタリはだけかしらにあるのがこの釣りだが、この日はどうもおかしい。こ



▲東京湾のマゴチシーズンもいよいよクライマックス



▲まずは近場のポイントから探っていた

灼熱の日差しもその力を弱め、過ごしやすい朝晩がやってくると東京湾の照りゴチシーズンも終盤に入る。産卵のために3メートルほどの浅場まで入ってくるマゴチは、秋の訪れとともに徐々に水深10メートル以上の深場へと移動する。

このときに越冬のため活発

前日と様子が違う…

鶴見の新明丸に取材に伺ったのはまだ夏の曇りが収まらぬ8月の終わりで、照りゴチシーズンの終盤だった。

とはいえ前々日の釣果はトップで10本、前日の釣果はボウズなしてトップ5本と好調に釣れている。場所は船宿を出てすぐのつばさ橋付近の近場から、大貫沖まで広く攻めているようだ。

7時半に8名の釣り客を乗せて出船。まずはつばさ橋の手前、鶴見川の河口付近で第一投の合図が出た。

この場所は海底の起伏は激しく、船が流れるにつれ1メートル前後水深が変化する。

東京湾奥鶴見発↓羽田〜富津沖

東京湾のマゴチ好調のまま大型狙いの秋シーズンへ

20秒に一度くらいの頻度でまめなタナの取り直しをすることがアタリを多く出す秘訣だ。つばさ橋の手前から扇島の西側へとポイントに移す。ここで左ミヨシの釣り人が船中1本目を上げた。きたよ!という声に振り向くと、すでに中オモリが海面に出てくる場所だ。それだけ浅い

新明船長が素早く操舵室から出てきてタモを入れる。48センチのまずまずサイズのマゴチだ。

この1本を景気づけに次つぎと竿が曲がることを期待したが、後が続かない。マゴチ釣りはアタリ自体はかなり多い釣り、それをいかに食い込ませて掛けるかというのが面白いのだが、この日はアタリ自体が少ない。前日までとは何かが違うようだ。

船長は移動に時間がかかる

んなにアタリがないことは珍しいというくらいアタリが少ない。

船長が時折「エサは生きてますか?」とチェックしにくる。どうやらこの日は東京湾に貧酸素水塊が発生しており、魚が酸欠気味で食いが悪くなっているようだ。サメやエソのように潮止まりによく食ってくる魚が多く見られるのも酸欠の影響だろうか。

船長の苦心のポイント探しは続いて、それが実ったのは午後になってからだ。扇島の北側の浅場を攻めたときに、2人の竿が続いて曲がった。いずれも40センチオーバーのマゴチだ。これをきつかけに何本かのマゴチが上がる。私と言えは、まだ型を見えない。残り時間はあと1時間を切っている。竿先の変化に集中しながら、まめにタナ

ことを告げ、船を南に向ける。40分ほど着いたのは富津沖だった。水深は10メートル前後、秋シーズンに主体になる釣り場でもある。

ここでも最初に掛けたのは左ミヨシの釣り人だった。きれいに竿をしならせ、同サイズの2本目を取り込む。

このポイントは、アタリは多かったがマゴチ以外の魚も多い。40センチほどの巨大なエソや1メートルくらいのサメ。ただ、昨日まではこれらの外道は交じらなかつたようだ。

船長は次つぎにポイントを探る。第一海壁の南側から大貫沖と回ってマゴチが数本上がったが、全員にアタリがあるほどではない。



▲シーズン終盤は大型狙いのチャンスでもある

を取り直す。

潮の流れは悪くない。1.5メートルのハリスならタナは底から1メートルでちょうどいいはずだ。糸フケを取って竿先を海面ストレスの状態にしてから、スワットと1メートル持ち上げた位置で竿を固定してアタリを待つ。

そしてやっと、ククッと小さなアタリが出た。これを逃したら今日のボウズは確定になる。糸を張らず緩めずの状態でのアタリを待った。

2回、3回とアタリが続く。3回目のアタリはやや大きく引き込んだ。あまり待ちすぎてもマゴチがエサのハゼを吐き出してしまふ。ここが決断の時と竿を持ち上げ、合わせを入れる。

ズシン!と竿が曲がった。魚がバタバタと暴れるさまが手元に伝わる。船長がタモ取

知得! Tips and Tricks

サイマキエサ 発祥の船宿

秋シーズンはハゼをエサにしているが、新明丸といえばマゴチにサイマキエサを使い始めた宿だ。あれは40年近く前だったろうか、当時のマゴチ釣りは生きたサルエビをエサに使っていた。東京湾ではシャコ漁の網にサルエビがたくさん入ってきていた時代だ。

今は春〜初夏のマゴチ釣りにはサイマキエサが当たり前になったが、当初は高級天ぷらネタのサイマキを使うなんてビックリしたものだ。エサの値段もサルエビが1匹50円、サイマキは100円と倍だった覚えがある。

▼新明丸ではハゼシーズンでも希望者にはサイマキを別売りしている。(サイマキがあるかは事前に確認のこと)

●船宿information

東京湾奥鶴見

新明丸

☎090-4600-1225
(詳細は巻末の情報欄参照)

新明 慶樹船長

▶料金=マゴチ乗合一人1万円(エサ5匹付き)
ハゼエサ追加は1匹100円。氷200円、駐車場500円。仕掛け販売あり
▶備考=予約乗合、7時半出船。別船はフグ、マダコへ